



いつも全力！

宗像市議会 建設産業常任委員会 委員長

あべ よし ひで

安部 芳英

〒811-4175 宗像市田久6丁目1番

Tel / Fax 0940-32-1386

メール abeyoshihide@gmail.com

ホームページ http://abe-yoshihide.jp/



▲LINE@

LINE@を開始しました。議員活動の発信やご案内などを配信していきますので、QRコードよりお友達登録をお願い致します。

## 議員活動報告書 2019年4月号

### 1 地域経済を循環させるために



宗像市に足りない部分があるとすれば域内循環、域内消費の分析と考える。他の自治体においては域内循環の試算を独自で行なっている。そういった調査分析をせずに根拠の曖昧なまま経済政策、補助金を今後も行っていくのか。

ご指摘の通り域内循環という視点での十分な分析はできていない。市内の関係団体や金融機関が持っている調査分析ノウハウ、蓄積データを活用して分析について他市の事例も参考にしながら研究を進めてまいりたい。



公共工事、物品調達について域内循環の視点から宗像市内で取り扱っている物、地域で調達できる物品を確保するように制度の整理整頓をしてほしい。

地元の精査品を使うことは最優先に考えているが、今後も最大限配慮をして取り組んでまいりたい。



これから年金受給年齢が上がっていくことが予測されているので、市民に対して少しずつビジネスの啓発を行っていかねばならない、市民学習機会の中に「稼ぐ意識」を持つようなメニューを作ることはできないか。

生涯学習支援については市民学習ネットワークを行っている。今後ニーズも含めて一緒に考えていきたい。



市内全域で福祉施設、生産者、飲食店の食に関する部分でビジネスマッチング機会、つなげる機会をつくることができないか。

市内福祉施設の食材について可能な限り地場産食材の利用についてお願いをしていきたい。マッチング機会について極力増やして消費の視野を広げていく、常にそういったことを考えながら仕事を進めていきたい。



域内循環に関して過去に提案していた地域通貨やまちづくりポイント制度について進捗は。

平成30年5月  
マイキープラットフォームの  
実証実験を開始

結果

地域通貨  
の導入

自治体ポイントに交換して  
特産品の通信販売を行う

広がりがある



また、今後キャッシュレスの推進を行っていく中で消費喚起、消費者の取り込みを強化していきたい。



市職員の飲食について、市外でされているとよく耳にする。是非宗像市内で懇談会、歓送迎会をしてほしいが。

市職員が地域にお金を落とすしていくことは当然の使命であると考えている。



### 2 子どもたちの安全安心のために



市ではPTAをどのように位置づけ捉えているか。仮にPTAが解散や休止となった場合、子どもたちにどのような影響があるか。



PTAは親と教師とが協力して児童・生徒の健全成長を目的に活動を行っている任意の社会教育団体であり、なくてはならない団体。仮に解散したり、休止した場合、学校、家庭、地域をつなぐ役割を担うところが無くなり、学校教育活動に大きな影響が生じてしまうことになる。



宗像市通学路安全推進会議及びプログラムについて

- ① 現役の会長の大半がその存在を認知していないのに、プログラムではPTAが安全点検を行うことになっている。
- ② 構成メンバーの一人である学校の先生はその地域に住んでいないので通学路の日常、危険箇所に関する判断は難しいと有識者が指摘している。
- ③ 推進会議での協議結果、対応内容についてはPTAや保護者にフィードバックされていない、またプログラムでは公開することになっていたが、平成29年度については公開されていない。



これらについて改善を要望

改善を検討したい。 ※危険箇所については質問の翌日28日に公開されました。



土穴地区旧三号線  
城山中学校への通学路



再三危険性を指摘

地域



・当該道路の工事の期間、内容  
・生徒の安全対策  
不安を抱く声も...

地元説明会などの開催について要望があった場合は、道路管理者である県との橋渡しをしてほしいがどうか。

そういったご要望があれば橋渡しさせていただく。



市内通学路の危険個所の電柱を活用して「飛び出し注意」などの啓発表示板の設置を検討できないか。スポンサーをつければ経費はかからない、是非検討してほしい。

検討したい。



飛び出し  
注意!



## 宗像の経済の漏バケツをふさぐ。

昨年、飲食店でオーナーと地産地消や域内消費の話で盛り上がりました。宗像市の野菜を市内の生産者直売所で購入して食材として使用しているけど生産者と飲食店の顔の見える機会、マッチング機会があればお互いにWIN-WINになるのでは？という貴重なご意見をいただきました。その後、日々ランチを通じて関係者の声を伺ったり、市役所の担当部署に行って現状を把握したり、農業委員、商工会の方々との懇談会でも情報を収集させていただきました。

宗像市も域内消費を推進していて、市内飲食店と生産者とのマッチング創出事業を行っては来たものの食材を提供する側の生産者の負担だったり、出荷規模に課題があることがわかりました。その一方で、生産者が独自ルートで大手チェーンと取引をしていること、独自ブランドを開発して販路を探していることも明らかになり、創意工夫の余地があることもわかりました。商工事業者からの人材不足の声も増えていました。

さらに商工会としても市内経済の調査分析について課題認識があることもわかりました。その結果を踏まえて、生産者と飲食店とのマッチング機会の創出。飲食店（特にお弁当）福祉施設、生産者とのマッチング創出機会を増やすことで、ヒト×モノ×カネ、三方よしに繋がると訴えました。

さらに、市民が毎日食べるお米、味噌汁などの消費を地元産品に変えていくことが、地味だが域内経済の好循環に繋がることも常識だがあえて訴えました。

そしてそのために、まずは域内消費や域内循環に関する数値を抑える必要があり調査分析、物差しを作る必要があります。

「長年訴えてきましたが、これこそが肝。」

たとえば、市税収入が増えたとしても経済の域外流出ばかりでバケツがダダ漏れだったら本市の未来は明るいとは言えないからです。創意工夫する市民、民間の後押しは一致団結してやっていきたいですね！みんなで市内の経済活動を促進させましょう！



### 地域の中で循環



## ? あの提案はどうなった?

### ふるさと寄付金のその先の有効利用の重要性

最近、行きつけのうどん屋さんの前を通りかかったら頻りに閉まっているので不安になり先日訪ねてみたら、ふるさと寄付の返礼品の発送に追われていました。

私が提案（特産品を返礼品に加えることとクレジット決済化）した当時は「どうなるかわからない」と言われていた、ふるさと寄付の返礼品の商品開発、出店に果敢にチャレンジしてくださいました事業者の方々のおかげで宗像市の税外収入は確実に増えています。

私はふるさと寄付金制度は6次化の推進、テストマーケティング、市職員の稼ぐ意識向上、外貨獲得効果がメインだと考えています。ふるさと寄付で商品が話題になってデパ地下などへの販路拡大やネット通販チャンネルの確立につながれば、もしもこの制度が無くなったとしても、本業を維持しつつ無店舗営業、24時間販売が継続できるので事業者にはメリットしかありません。

ただし、提案当時と違い、今後は制度変更がある可能性も否定できない状況ですので、今からスタートしようとする事業者さんにはリスクもあると思います。宗像市が市政運営に毎年10億円の収入をこの制度を利用して見込むのであれば、その辺りのリスク対策も考えてあげないといけません。

それから、31年度予算の人件費40億円の4分の1をこの制度で賄ってもらっていると捉えれば、私たち行政に関わる者は他人事ではなくて自分の給料の25%を賄ってもらっている認識を持って総動員でPRすることを忘れてはなりません（あるパン工場ではクリスマスシーズンに社員総出でケーキ販売のノルマがあるように）。

そして、この10億円という有難い果実を現在ある事業だけに使うのではなく、万が一の時の備えとして蓄えることや、商品開発や販路拡大、地域経済分析調査、収益確保のための可能性調査費に充てることを意識する必要があります（自ら稼ぎ家族を養ってきた私としては、ごく当たり前の考え方だと思うのですが・・・）。ちなみに、民間では自分の給料の5倍から10倍の稼ぎがなければ会社に貢献したことにはなりません。

私たち行政に関わる者は自分たちの職域、担当部署だけではなく宗像市の財政に関して広い視野を持って行動することが求められていると思います。



## ? あの要望はその後どうなった?

過去の一般質問で度々提言していましたが、赤間駅を中心とした本市の中心拠点の安心安全に支障をきたす恐れのある水路（沼川幹線、赤間第8幹線、田久幹線）について、昨年の議会でも梅雨前までの早期対策を要望していました。

3月に入り、赤間第8雨水幹線のしゅんせつ工事が始まりました。

